

委 員 会 報 告

2010～2011年度

No.1

第 11 回

委員会名

緊急対策支援委員会

委員長名

L 高橋 芳久

開催 日時	2011年 5月 24日 火曜日 17時 00分 ～ 時 分					
開催 場所	ルノアール					
出席 者		河合地区ガバナー		大石第1副地区ガバナー		阿久津第2副地区ガバナー
	○	L 高橋 芳久 委員長	×	L 上野 滋朗 副委員長		L 副委員長
	○	L 井上 一二三 副委員長		L 委員		L 委員
	×	L 五十嵐 隆 委員		L 委員		L 委員
	×	L 古川 浩成 委員		L 委員		L 委員
	○	L 秋山 勉 委員		L 委員		L 委員
	○	L 酒井 三雄 委員		L 委員		L 委員
	×	L 森 鉄雄 委員		L 委員		L 委員
	○	L 岡 博文 委員		L 委員		L 委員
	○	L 大澤 力 委員	○	L 副幹事 赤尾 嘉晃		
	×	スペシャルアドバイザー L 坂本 潤之輔 委員				
	出席オブザーバー					
	○	キャビネット幹事 L 近藤 正彦				
○	キャビネット会計 L 吉田 實					
次 第	司会・進行 L 高橋 芳久 委員長					
	1	東北地方太平洋沖地震について				
	2	上級救命技能認定について				
	3					
	4					
	5					
	6					
議 題	審議経過事項の概要					
		◎ 委員長報告				
		・ 自クラブメンバーと共に中古自転車100台を持参した。				
		現地での貴重な足となる自転車は大変悦ばれた。				
		・ 現地の方々は資金不足。手持ちのお金が全くなくなりに等しく、また働く場もなく、				
		不自由な生活を余儀なくされている。				
		未だ国からの具体的対策が実行されていない。				
		・ 見るに涙、聴くに涙の惨状であるとの状況を、写真を添えて話された。				
	次回開催日時 場所	2011年 6月 24日 木曜日 18時 00分 ～ 時 分				
				作 成 者	L 井上 一二三	

議 題

審議経過事項の概要

◎ 酒井委員

現地被災状況を別添記録にまとめて話された。

報告を聞き、涙をこらえるのが精一杯でした。

◎ 赤尾副幹事

・ 石巻市の物資支援に関する報告があり、最も求められているものは、

1) 発電機 1kwから3kw

2) 土のう袋

3) 虫除けスプレー

4) 掃除機 等であり、他の物資は十分あるが、求める現地への
仕分け搬送が、スムーズに行われていないとの事。

・ 国家・地方行政の行動の仕組みが未だ確立していない状況が浮き彫りの感大であつた。

◎ AED使用の上級救命技能認定取得者は、目下のところ200名程度である。

東日本大震災により、講習会への積極的行動が鈍る結果となった。止むを得ない。

◎ 東日本大震災への支援は、長期的に対応する必要がある。

次期執行動への申し送りをすべき。

◎ 支援物資について、ライオンズクラブのシールの作成が必要である。

「ありがとうシール」とは別に作ることをキャビネットに計りたい。

◎ 被災者への慈愛に満ちた対応を、如何にすべきかに話題を広げ、様々な意見を
交わし、委員会を終了。

◎ キャビネット会議への報告書作成を、議題とする委員会を、向島 清ノにて
行うことにて散会した。

東日本大震災地視察記録

平成 23 年 5 月 14 日、15 日(土、日)池袋ライオンズ'CLを主体とした 7 名で 2 台のワゴン車
宮城県亘理町、名取町、仙台空港、仙台市、を視察した。

当日名取町、「ハマボウフウの会」の会長大橋信彦氏(大橋氏も家を全壊流された)の案内で名
取町関上(ユリアゲ)地区を中心に視察した。

道路は厳しい検問がなされ市の通行許可証が無ければ中心部に立ち入る事が出来な
かったが私共の車は大橋氏が事前に許可証を取得して下さった為無事通行する事が出来
た。厳しい検問の理由は震災翌日からトラック等に依る大規模な窃盗が横行し現在でも続
いている為の取り締まりと云う。

被災況は想像を絶する 状況でありそのなかで自衛隊の隊員が黙々と遺体探しに活動し
ている姿をまのあたりにし「アリガトウ頑張ってください。」と心の内で祈らずにわ居られま
せんでした。

関上(ユリアゲ)港から 300m位離れた高さ 5M 程の小高い丘にあがった。6 坪程の狭い敷
地があり震災前は神社があり石碑も 3 塔あったが 2 塔が流され不思議に 1 塔のみが建残
っていた。海の方に真新しい塔婆が数本、その前には花が手向けられていた。

私達は塔婆に向かい全員で黙祷。丘の上からは 360° 見渡せ、港の建物はもとより見
渡せる限り全ての家が流され瓦礫の平野となっていた。

夕刻 5.00 より大橋氏をはじめ、名取「つばさライオンズ'クラブ」会長川崎正夫氏代理、名取市
災害対策本部特命係太田幸雄氏の出席ミ'テイングが開かれた。

要旨

- 1) 災害前の避難訓練はまったく役に立たなかった。
- 2) 避難警報サイレンが停電の為用をたす事が出来なかった。
- 3) 津波発生から 40 分の時間があつたが----- !

4) 自衛隊の皆さんが礼儀正しく、本当に一生懸命に働いてくれて手を合わせる気持ちで居る。

5) 私共が今お手伝い出来る事は！
今「お笑い」が一番欲しい。それも現実離れしたお笑いが。物資は十分足りている。

6) 両親を失った児童が沢山居ると聞いていますが！
最終的な人数は確認されていないが、震災孤児になった子ども達に「おじさん達、おばさん達が付いているよ！！」といふ「心のラブレター」を送って欲しい。

7) 名取市 震災に依る死亡者:899 名 行方不明者:116 名 合計 1.015 名

8) 名取市は市長の超法規的な処置で行け！。責任は俺がとる。の一声で名取市民全員が復興に向けて頑張っている。

9) 仮設住宅は市長の超法規的な措置により予定の920戸全てを5月中に完成させる外がついている。

10) 役人は市民と向かいあった話が出来ますか？あなた達は真実と向いあって話が出来ますか？と市と市民が話しあっている！

以上

